

# 美濃路大垣宿周辺の景観遺産

## 歴史ある風景を楽しんでみませんか

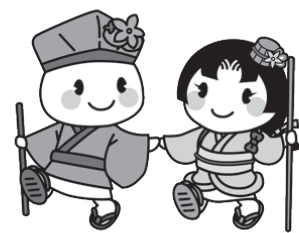
大垣は交通の要所であり、昔から多くの宿場が栄えてきました。その中でも美濃路大垣宿は、中山道と東海道をつなぐ美濃路の宿場町として、江戸時代を通じて、本陣、脇本陣、問屋場、旅籠屋、商家などが軒を連ねていました。

今回は、その美濃路大垣宿周辺の景観遺産について、宿場町周辺を巡るモデルルートに沿って紹介します。

詳しくは、都市計画課（☎47-8694）または、市HPをご覧ください。



市HP



### 1 金蝶園総本家 高屋町1丁目17

創業当時の建物は残念ながら戦災により焼失してしまい、現在の店舗は戦後の昭和26年（1951年）に建てられたものです。店舗正面には大きな屋根の妻を見せ、柱などに良材を用い和風の意匠を採用した、駅通りには珍しい木造建築物として風情を漂わせています。



### 2 八幡神社 西外側町1丁目1

中世には大井荘と呼ばれ東大寺領であったため、東大寺の鎮守を勧請して建てられました。大垣まつりは、江戸初期にまでさかのぼる八幡神社の祭礼で、藩主より拝領の三輪軸と、町の持ち軸十輦が城下町を巡行し、提灯が輝く夜宮も別の趣があってにぎわいます。境内には自噴の井戸があり、絶えることなくこんこんと水が湧き出ています。

### 3 円通寺山門 西外側町1丁目32番地1

円通寺は、初代大垣藩主戸田氏鉄公が大垣へ国替えになった寛永12年（1635年）に、尼崎から伽藍などを移し建立されました。落雷などにより数回焼失し、現在の木造瓦葺の山門は、天保年間（1830年～1844年）に再建されたものです。昭和20年（1945年）の空襲で本堂などは焼失しましたが、山門は延焼を免れ、大垣藩戸田家の菩提寺にふさわしい豪壮な姿が今に残っています。



### 4 旧戸田鋭之助郎正門附船板塀 丸の内2丁目4

旧大垣藩家老戸田鋭之助の旧邸の正門と板塀で、現在は郷土館の施設として保存されています。板塀は船板を利用して塀にしたもので、かつての大垣市が水門川を利用した水上交通が発達していた往時を偲ぶことができる貴重な資料です。

### 5 大垣城 郭町2丁目52

城下町大垣のシンボルである大垣城。築城の時期は16世紀前半までさかのぼります。関ヶ原の戦いで、西軍・石田三成の本拠地となったことは有名で、その後、戸田氏が十万石の城主となり、戸田氏の治世は明治維新まで続きました。城内には天守のほか隅櫓、城門、武徳殿などがあり、また、館内では関ヶ原の戦いに関する展示や、展望室からの眺望を楽しむことができます。



### 6 OKB大垣共立銀行郭町ビル 郭町2丁目12

昭和2年（1927年）の年末に、工費17万円（当時）を投じ落成しました。総建坪約500坪を誇る3階建ての鉄筋コンクリート構造で、1階および2階の一部を、明治27年（1894年）に創立された大垣貯蓄銀行（昭和18年に大垣共立銀行に合併）の本店とし、その他の部分をデパートとして、「大ビル百貨店」の名で開業しました。大垣でエレベーターが取り付けられた建物の第1号となりましたが、これは当時名古屋から京都に至るまで唯一の存在でした。現在は改装され、市の榮譽市民である日本画家、守屋多々志の作品を展示する美術館となっています。

